

ていることが想像されるのである。

(採卵会の成果) フジミドリシジミ	5 卵
アイノミドリシジミ	15 卵
ジョウザンミドリシジミ	150 卵
エゾミドリシジミ	55 卵

(TAKAYUKI NIGAKI) 〒671-15 姫路市

安富町大河弁獄 7 月上旬の蝶

広 畑 政 己

大河弁獄は安富町関の西方に位置し、林田川に注ぐ支流の源にある。すぐとなりの雪彦山については言うまでもなく、ウスバシロチョウ、スギタニルリシジミなどの産地として古くから親しまれ、蝶類の調査も行き届いている。しかし山一つ隔てたこの溪谷へは採集者も少なく、これまで一編の報告もされていない。

筆者がこの溪谷を訪れたのは、ウラジロガシが自生しているという事実から、ヒサマツミドリシジミが棲息しているのではないかという憶測があったに他ならない。

標高200m～600mの溪谷には、ウラジロガシの他に、シラカシ、アラカシ、ケンボナシ、アカシデ、サワシバ、ケヤキ、カナクギノキ、ネムノキ、トネリコ、カラスザンショウ、ヤマザクラなどの樹木が繁茂し、景観美を成している。

この溪谷へは過去2度足を運んだが、いずれも冬期の調査で、夏のシーズンはこの度が初めてである。過去2度の冬期の調査では、メスアカミドリシジミの採卵という幸運に恵まれたが、念願のヒサマツミドリシジミの発見にまでは至らず、今回の調査でもウラジロガシが多い対岸の急斜面に入れず、前回と同じ結果に終わった。県下瀬戸内側からもヒサマツミドリシジミが発見されており、この地での発見を期したい。この度の調査で採集及び目撃した種を次の通り報告する。

採集及び目撃年月日……1978年7月8日

シジミチョウ科

ツバメシジミ、ウラキンシジミ、ムラサキシジミ

セセリチョウ科

シロチョウ科

ヘリグロチャバネセセリ

キチョウ

ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメ

タテハチョウ科

イチモンジチョウ、サカハチチョウ、コミスジ。

キリシマミドリシジミの飼育について

佐々木 薫

1. はじめに

当時小学二年生で大の虫好きだった長女と連れ立って春の三濃山へ昆虫採集に出かけ、初めてネットに入ったカラスアゲハの羽化直後の個体を手にした私は、その美しさの捕虜になり今年で6年目を迎えた蝶の愛好者です。

当初は成虫採集だけに熱中していた私も、ヒサマツミドリシジミとか、キリシマミドリシジミの類を採集する事の困難さを知り、3年前から飼育を始め、去年はヒサマツミドリシジミの飼育に成功したので、今年はキリシマミドリシジミの飼育を試みたところ、フ化率85%強という良い結果が得られた。これまで先輩諸氏が、数多く試みられ、フ化率の悪いことで定評のあるこの種だけに(同じ同好会蝶友の数名が私と同じ程度の卵を同じ時に採集し飼育したが、私以外の全員が失敗に終わったことから)是非今回の同好会誌発行にその経験談をという事から素人のまぐれ談を書く事になりました。専門的知識の無い小生のこと、そこは自己流の表現で卵採集より羽化迄の過程を書く事にしましたのでグラフと一諸に見て頂き、少しでも参考になれば幸いです。

2. 飼育に先だって

(1)卵採集の前に食樹のアラカシを一週間々隔位で取って来て廊下の中で瓶に挿し、野外より早く発芽させ、もし自然のアラカシやアカガシが芽を出す前にフ化した場合に備えて置きたい。

(2)卵の採集には53年4月1日に出かけて164卵採集することが出来た。

(3)小生は過去2年の経験から、卵の保存方法については早くから卵を採集して冷蔵庫で保存して来ましたが、どうもフ化率が良くないのではないかと思い、キリシマミドリシジミについては卵の採集期を友人と話し合って遅くし、冷蔵庫には入れないで、採集した卵はそのままタッパの底にティッシュペーパーを敷き、霧吹きで僅かに湿った程度にし、その上へ新芽のついたままの卵を置き、タッパの蓋を締め、室内(廊下)で保存した。廊下の中は午前中2～3時間程度は太陽が当たって、かなり暖かくなっている。

(4)タッパ1個には約20～30卵程度にしてあまり多くの卵を入れず、毎日必ず幼虫がフ化していないかを確認する作業をし易くしたい。